

JFS-B 規格でベビーフード製造工場の 安全管理レベルを向上

Ofukuro babyfood



JFS-B 規格適合証明取得
株式会社味千汐路（食品の製造・販売）

新潟県糸魚川市に本社を構える株式会社味千汐路様は、離乳食を中心とした食品の製造販売をしておられます。代表的な商品としては、有機野菜を使用した離乳食「ofukuro ベビーフード」が挙げられます。本社工場で有機 JAS の認証を取得しており、国産素材 100%、食品添加物不使用のベビーフードを製造しています。高温高圧殺菌を行っているため、添加物を使用しなくても開封前の長期保存が可能となっています。ベビーフードに使用している食材は産地を限定しています。素材や製法にこだわった商品は多くの消費者に支持され、大手流通小売店でも販売されています。インターネット販売にも以前から注力しており、商品を直接エンドユーザーに届ける体制も構築しています。本社工場において、2024 年 2 月に JFS-B 規格を取得されました。今回は、取得にむけた取り組みを主導された山田幸枝代表に、取得の目的や今後のビジョンについてお話をうかがってきました。

—JFS-B 規格を取得された目的をお聞かせください。

山田代表（以下山田）：やはり、輸出のためという面が大きいですね。少子化が進む日本では、ベビーフードの市場は小さくなるばかりです。当社にとって、輸出を拡大するというのは至上命題でした。以前から台湾やベトナムなどに輸出していましたが、それをさらに強化していこうと考えていたのです。そのためには、なにかしらの認証（適合証明）を取得する必要があるという結論に至りました。また、国内の取引先から「食品安全を担保する認証（適合証明）を取得しているか」を確認される機会が増えたことも取得を後押ししましたね。以前に比べて、食品安全に対する意識が社会全体で高まっており、取引先もデリケートになっていると感じました。特に当社の場合、生産しているのが乳児の食べるベビーフードですから、どうしても食品安全に関しては敏感にならざるを得ません。

—JFS-B 規格の内容をご覧になられて、どのように感じましたか。

山田：当社も以前から食品安全には注力していたのですが、実際に JFS-B 規格の内容を見て「ここまでやる必要があるのか」と驚きました。これまでは既存のやり方で十分だと思っていましたが、まだまだ改善の余地があると感じましたね。項目が多く、やらなければいけないことも多いのですが、ガイドラインが分かりやすいこともあり、そこまでハードルの高さは感じませんでした。

—JFS-B 規格を取得する取り組みの中で、どこに難しさを感じましたか。

山田：全体的に、難しさはそこまで感じませんでしたね。取得するための取り組みを開始してから、実際に取得するまでの期間





は3ヶ月程度でした。当社は過去に有機 JAS の認証を取得しており、その時の経験が活きたと感じています。また、HACCP を取得した経験があるのも大きかったですね。当社に限らず、過去に他の認証を取得したことのある企業なら、その時の経験を JFS-B 規格の取得にも活かせるのではないのでしょうか。種類によっては、重複する部分もそれなりにあるはずです。最も時間をかけたのは、現場の社員の経験を文章や表、チェックリストにする工程です。これまでは社員の経験に頼っている部分が大きかったのですが、その経験を誰もが分かるような形に落とし込まなければいけなかったのです。時間はかかってしまいましたが、社員の経験を分かりやすい形に落とし込めたというのは、会社としても大きな収穫でした。もちろん、私だけでは JFS-B 規格を取得する取り組みを進めることはできません。工場長をはじめとする様々な立場の社員を巻き込み、取り組みを進めていきました。短期間での取得を目指すなら、チームを組んで取り組みを進めるのが得策でしょう。

—JFS-B 規格を取得することに対する現場の社員の方の反応はいかがでしたか。

山田：丁寧な説明を行ったこともあり、社員はみんな前向きに取り組んでくれました。食品安全に関することは、いくら管理職が熱心でも、現場の社員が協力してくれなければ成功しません。なぜ取得するのか、取得するためには何をすればいいのかをしっかりと社員に説明しました。ベビーフードというのは、異物混入などに嚴重な注意を払う必要がある商品です。そんな商品を作っている当社の社員は、以前から食品安全に対する意識は高かったのですが、JFS-B 規格を取得するための取り組みを通じて、より成長してくれたと感じています。JFS-B 規格の取得は、社員を成長させるための絶好の機会でしたね。

—JFS-B 規格を活用した今後のビジョンについてお聞かせください。

山田：やはり、輸出を強化していきたいですね。カンボジアにベビーフードを輸出しようと計画していたのですが、何かしらの認証（適合証明）を求められ、計画がストップしていました。晴れて JFS-B 規格を取得しましたから、計画を再開していきたいですね。そう遠くない時期に JFS-C 規格の取得も目指しています。決して簡単な認証ではありませんが、JFS-B 規格を取得した時の経験を活かせば、比較的スムーズに取得出来るのではないかと考えています。会社全体の売上に占める輸出の割合はまだ低いので、JFS-C 規格も取得し、輸出をさらに拡大していきたいですね。

—JFS 規格に期待していることはなんでしょうか。

山田：認知度を高めて欲しいという気持ちがあります。取引先と話していても、JFS 規格を知らないという方がまだいらっしゃいます。以前よりも認知度は上がっていると思いますが、まだ十分ではないと感じます。認知度が上がればその分だけ取得のインセンティブも高くなるので、もっと積極的にプロモーションをしても良いのではないのでしょうか。

—JFS 規格の取得を検討している企業へのメッセージをお願いします。

山田：JFS 規格のような信頼性の高い認証（適合証明）は、会社が食品安全に関して厳しい基準で臨んでいるということを分かりやすく示してくれます。当社は有機野菜を使用してベビーフードを生産していますが、それを信じてもらえるのは、工場で有機 JAS を取得しているからです。それと同じように、食品安全について取引先やエンドユーザーから信頼してもらうには、JFS 規格のような認証（適合証明）が必要なのではないのでしょうか。取得する価値は十分にあると考えています。

— 本日はありがとうございました。



株式会社 味千汐路

Company Profile

社名 株式会社味千汐路
代表 山田 幸枝
住所 本社工場
〒949-1352
新潟県糸魚川市能生 1570-1
創業 1985年7月
URL <https://www.shioji.co.jp/>